

第98回日本細菌学会総会

総会長：藤永 由佳子（金沢大学医薬保健研究域医学系細菌学）
会期：令和7年5月29日（木）-31日（土）
会場：石川県立音楽堂（金沢市）

シンポジウム・ワークショップ企画の公募について

第98回日本細菌学会総会のシンポジウム・ワークショップの企画提案を以下の要領で公募いたしますので、是非企画をご検討ください。若手研究者からの企画も歓迎いたしますので、細菌学の広い分野 からの企画を奮ってご応募下さい。

■注意事項

- 1) 学会企画（「中・高校生の研究発表セッション」「細菌学若手コロッセウム」）・総会長企画を除く、全ての公募企画については同一人物がコンビーナを複数企画で担当することはできません。必ずコンビーナ/オーガナイザーは1企画のみでご担当になるように調整して申請して下さい。
- 2) 既に決定している総会長、委員会企画（資料を参照）とは重複がないようにご配慮ください。

■開催形式

現地開催を予定しております。

公募企画の種類

【シンポジウム・ワークショップ】

シンポジウム企画枠は1テーマ2時間30分、ワークショップ企画枠は1テーマ2時間とします。そして、シンポジウムとワークショップを合わせて10企画を公募します。

企画の採択について

ご応募いただいた企画は、総会長、シンポジウム等企画調整委員会で審議調整したうえで採否を決定し、コンビーナ（提案者）にお知らせいたします。企画によってはシンポジウムからワークショップへ、またワークショップからシンポジウムに変更をお願いする場合がありますことをご承知おきください。採択された企画内容の構成は原則として提案者にお任せいたしますが、総会長もしくはシンポジウム等企画調整委員会から調整・変更等をお願いする場合がありますことをご理解ください。

応募方法

別紙の回答書にご記入の上、日本細菌学会事務局までE-mail (gakkai23@kokuhoken.or.jp)にてご提案下さい。また応募される内容については資料を参考にして下さい。

提案締切 2024年9月18日（水）

第 98 回日本細菌学会総会の学術企画の提案に際して

① 総会長企画としまして、以下の企画を開催することを予定しております。シンポジウム/WS の提案に際しまして、重複のないようにご配慮下さい。

・特別講演「腸内細菌がもたらす感染防御機構（仮題）」

講演予定者：Andreas Bäumlér (UC Davis Health, Medical Microbiology and Immunology)

概要：腸内細菌叢の変化が、ヒトの様々な疾病・感染症に影響を与えることが明らかになってきた。しかし、いったい何によって腸内細菌叢の攪乱が引き起こされるのか、また腸管内に無数に存在する細菌のうち、どの菌種が、どのようなメカニズムで私たちに有益となる免疫機能をもたらすのかなど不明な点が多く残されている。本特別講演では、このような腸内細菌と感染防御機構の研究領域において世界のトップランナーである UC Davis の Andres Baumlér 博士をお招きし、最新の研究成果やそれを基盤とした創薬開発などについて講演していただく。

・シンポジウム x1 企画

「海外の一流 PI から学ぶ研究留学のすすめ（仮題）」

概要：海外の長期留学者数は、2000 年初頭をピークに半減したとのデータがある。これは新型コロナウイルス感染症の影響も大きいですが、それ以前から研究留学を進路に選択する若手研究者が少なくなったと実感できる。研究留学とは、言葉や文化が違う中で新たな生活を築き、海外で自身の研究を発展させるためのシンプルな挑戦になるが、世界中の研究仲間との輪を広げ、後の研究生生活を円滑に進めるためのチャンスでもある。本シンポジウムにおいて、これまで日本人を受け入れ育成された 4 人の一流 PI を海外からお招きし、それぞれ最新の研究結果や日本人研究者との思い出などを講演いただくことで、海外留学に興味を持つ若手研究者を鼓舞し、挑戦の後押しに繋がることを期待している。

② 委員会企画としまして、以下の 6 企画を予定しております。

シンポジウム/WS の提案に際しまして、重複のないようにご配慮下さい。

1) ワクチン開発拠点の現状と活用（仮題）

概要：令和 3 年 6 月に閣議決定された国家戦略「ワクチン開発・生産体制強化戦略」を踏まえ、国産ワクチン等の実現に向けて、令和 4 年度に 5 箇所の研究開発拠点が設置された（フラッグシップ拠点、シナジー拠点）。各拠点が活動を開始して 1 年半以上経ったところであるが、活動の内容や目指すところは必ずしも周知されていない。本セッションでは各拠点の活動を紹介いただくとともに会員がコミット可能なところも示していただく。

2) ゲノム・メタゲノム時代の菌種分類と新種命名（仮題）

概要：ゲノム情報を基に菌種分類の再編や種名・属名の変更などが行われている。また、メタゲノム解析の普及により、難培養性の新種が次々と発見されている。ゲノム・メタゲノム時代における菌種分類と新種命名の現状と課題についての教育的なセッションとする。

3) 薬剤耐性菌に待ったなし、感染症薬に王道なし（仮題）

概要：ワンヘルスの視点から薬剤耐性菌の疫学を多角的に探り、細菌ゲノム解析を通じて人、家畜、食品、環境における薬剤耐性因子の相関を示す。また、2016年のAMR対策アクションプランに続き、2023年の新たなアクションプランを踏まえ、日本および世界の薬剤耐性菌の動向を報告する。これらの現状を踏まえた上で、感染症薬の開発における革新的なアプローチを模索し、次世代の治療戦略に役立つ情報を共有する。

4) 細菌学はマイクロナノ理工学とマッチングできるのか？（仮題）

概要：近年、微小流体デバイスを活用して、組織・臓器を形成する「Organ-on-a-chip」技術が大きな注目を集めており、感染現象の解明にも応用されつつある。このような生体組織を模倣するというアプローチは、感染症における病原体と宿主の相互作用を理解する上で重要な技術的ツールとなる。このセッションでは、細菌学とマイクロ・ナノエンジニアリングの交差点で生まれる革新的な研究や技術の展望を紹介する。最新の研究成果を共有するとともに、これらのデバイスの有用性と感染症研究への限界と可能性について議論したい。

5) 皮膚侵害性微生物の戦略（仮題）

概要：皮膚は感染巣や病変が目で見えてわかることやかゆみ・痛みに対して手を使ってアプローチできることから我々にとって非常に身近な器官である。病原体と戦いのフロントラインであるが、皮膚に感染する病原体や皮膚の炎症や創傷感染での詳細なメカニズムは意外と知らないことが多い。外界との最初のバリアーとなる皮膚には、固有の微生物叢が定着し存在し生体防御の役割を果たしている一方、このバランスが崩れたり、皮膚の損傷による、宿主との攻防による炎症が様々な病態を引き起こしていると考えられている。この原因となる微生物が産生する生理活性物質の作用機序、宿主応答機序、更に、この治療にあたる薬剤などに関する知見報告は本学会では扱われることが少ない。本セッションでは、皮膚に感染する真菌、細菌について、皮膚障害をおこす微生物の戦略に関する知見を発表頂き、理解を深めたいと考えている。

6) 留学生セッション（仮題）

概要：このシンポジウムでは、日本で研究をしている留学生や海外から来たポスドクが、先駆的な研究を英語で紹介する。多様な研究者が一堂に会することで、意見交換を促し、細菌学の発展を促進する協力的な環境を醸成することを目的としている。このワークショップには、ポスター発表と同時に応募することができる。応募者多数の場合は、留学生を優先的に採択する。発表者の中から上位数名を表彰する予定である。

③ 注意事項

- 1) 総会におけるコンビーナー経験の少ない方にコンビーナーを務めていただくことを推奨します。
- 2) 演者の一部を公募にさせていただくことも可能です。
- 3) 他団体との共催とすることを推奨します。

「共催」と「後援」について：

共催：金銭的補助がある場合、共催と称することとする。

後援：金銭的補助がない場合（名義後援のみ）、後援と称することとする。

- 4) 多くの会員にご発表いただくために、総会長企画を除き同一人物が発表できるのは

1セッションとします。そのため、企画採択後に演者を調整させていただく場合があります。

④ 関連事項

- 1) 上記以外に学会企画（「中・高校生の研究発表セッション」と「細菌学若手コロッセウム」）を予定します。
- 2) 選抜ワークショップは開催しません。ワークショップ4枠を使用して、ポスター発表者に1分程度で発表内容を紹介いただくフラッシュトークを行うことを予定しています。
- 3) 非会員演者について：

シンポジウム・ワークショップで非会員の方にご講演依頼をした場合に伴う費用（学会参加費・旅費（宿泊費は1泊まで）は原則として、1企画につき1名を総会から補助します。ただし、国内旅費に限ります。

また、他学会等との共催企画の場合には、学会参加費は2名以上であっても無料とします。ただし、1テーマあたりの非会員演者数が多数となる場合は、コンビーナーの方に一部の負担をお願いすることがあることをご理解ください。